

注目の健康食品！

大豆の輸入

[2022年]

全国・管内ともに輸入金額が過去最高



2022年は、食品をはじめさまざまな商品が値上げ、値上げ、、、また値上げ！？と記録的な「値上げラッシュ」の1年になりました。

新型コロナウイルス流行から約3年が経ち、行動制限も徐々に緩和してきてはいますが、光熱費や食費など、生活費の止まらない物価上昇の影響による“節約志向”で内食回復が見込まれています。食品値上げが相次いでいるとは言え、外食に比べれば内食は割安で経済的ですよね。

豆腐や納豆、味噌や醤油などの大豆製品は、私たちの健康と食文化を支えてきた重要な食品となっています。その主原料である大豆価格も高騰し、日本の家庭を直撃する大きなダメージを与えたのではないのでしょうか。

今回は、物価上昇中の現在でも需要が伸びている、そんな日々の食卓には欠かせない「大豆」の輸入動向について、ご紹介します。



大豆について マルサンアイ(株)HPより引用

●歴史

大豆の起源は一般的には中国東北部、黒龍江沿岸といわれ、日本に伝わったのは朝鮮半島を経由して約2000年前の弥生時代に伝来して利用されてきたといわれています。

●種類

日本では黄色い大豆「黄大豆（キダイズ）」のことを一般的に「大豆」といいます。有色の品種もあり、黒大豆、青大豆、赤大豆（紅大豆）など多岐にわたります。

●栄養素

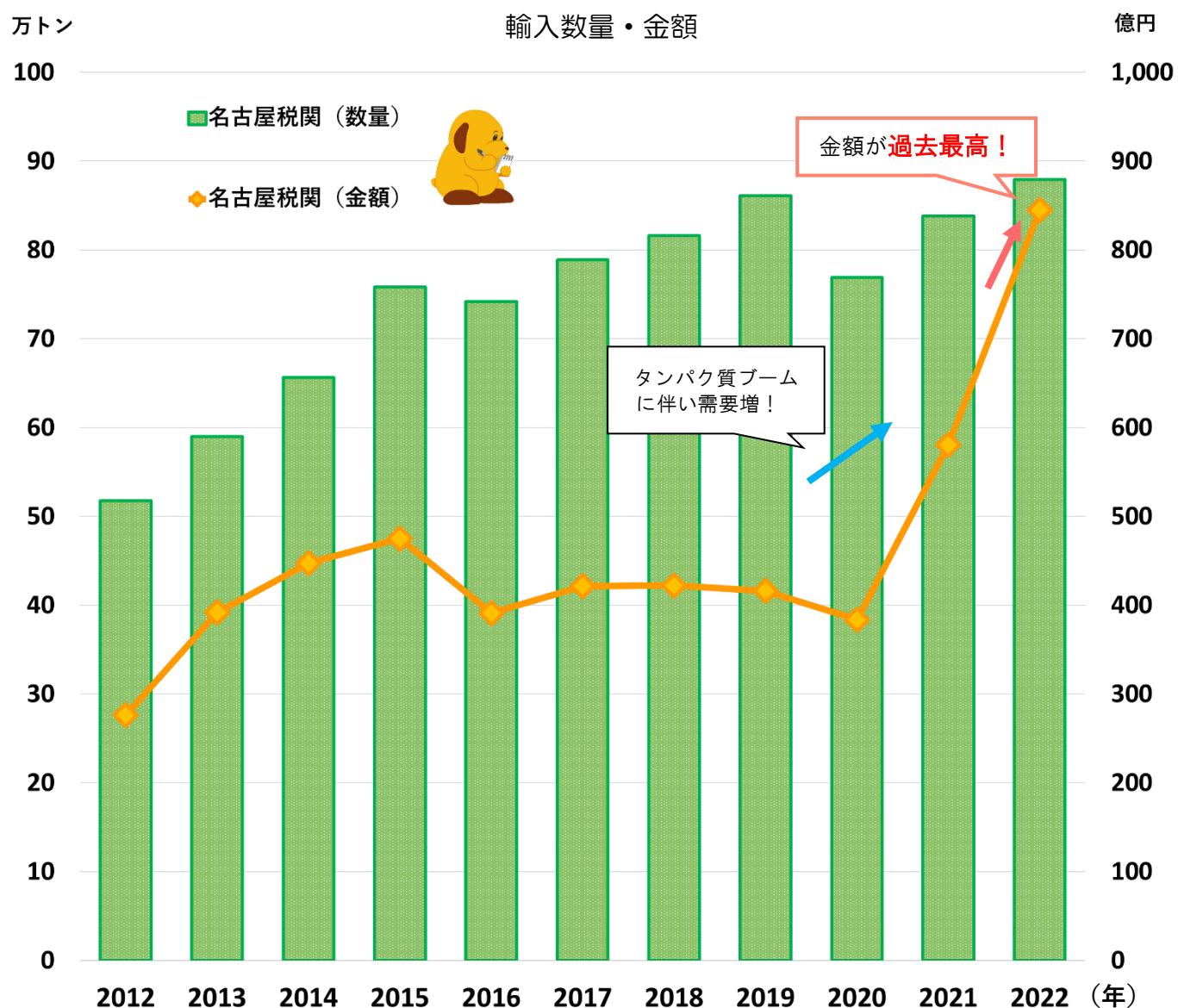
大豆たんぱく質は、植物性たんぱく質の中で最も動物性たんぱく質に近い良質のたんぱく質です。必須アミノ酸をバランスよく含み、牛乳や卵のたんぱく質に負けないくらい栄養価が高いため、大豆は「瘤のお肉」と呼ばれるようになりました。しかも、消化吸収がよく、体内で利用されやすいことも特長です。

米国産大豆の100g中の栄養成分（皮を含む乾燥大豆）

33g	28.8g	21.7g	11.7g	4.8g
-----	-------	-------	-------	------

■たんぱく質 ■炭水化物 ■脂質 ■水分 ■灰分 「日本食品標準成分表2020年版（八訂）」

輸入実績推移



2022年における全国の輸入実績は、

数量 349万85百トン（伸び率7.2%） 金額 3,382億19百万円（伸び率49.2%）

2022年における管内の輸入実績は、

数量 87万94百トン（伸び率4.9%） 金額 844億85百万円（伸び率45.5%）

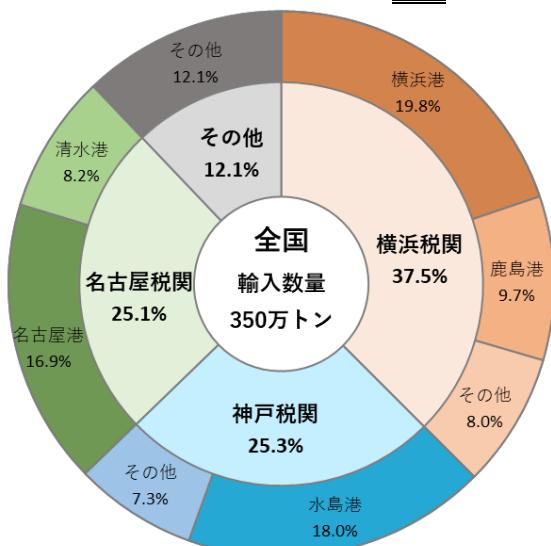
となり、全国・管内ともに輸入金額は過去最高となりました。

特に、名古屋税関管内においては、2012年と比較して、**数量が1.7倍、金額が3.1倍**と数量・金額ともに伸びていることがわかります。

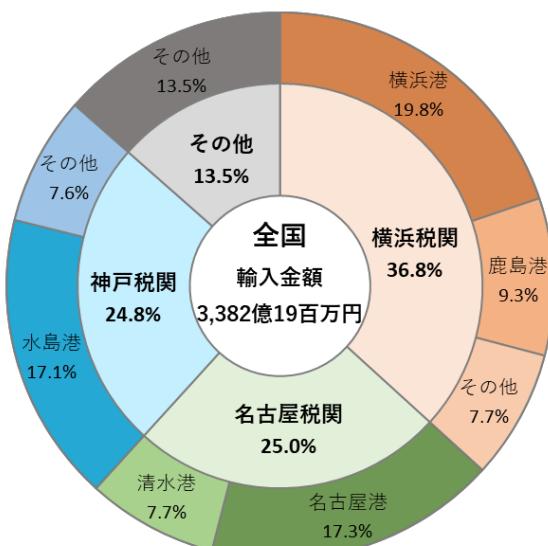
こうした背景として業界によると、為替を含む複合的な要因（原材料価格や輸送費等の高騰）もあるが、年々高まる健康意識や良質なたんぱく質素材として従来以上に大豆の需要が高まってきていることから、引き続き注目される市場であるとのことです。

港別輸入実績

2022年 税関・港別輸入数量構成比



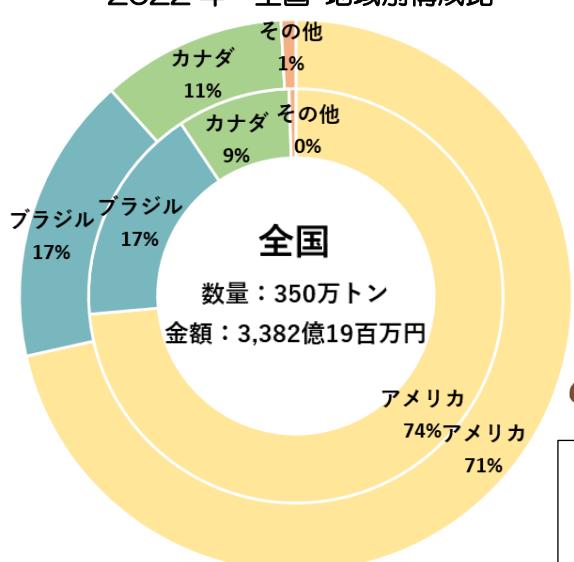
2022年 税關・港別輸入金額構成比



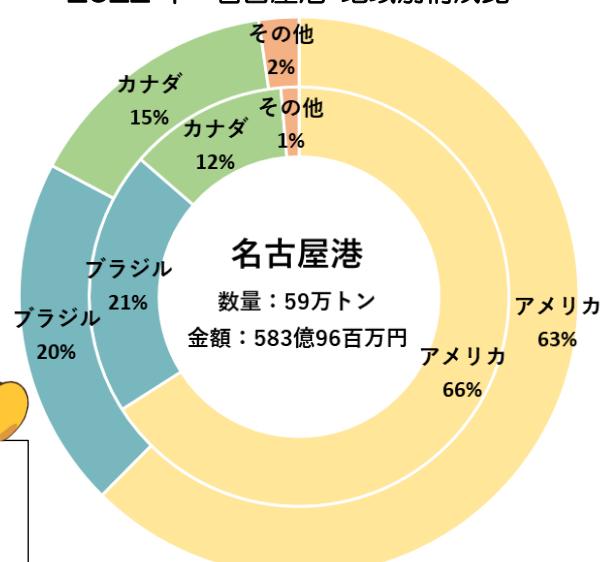
2022年における輸入実績を港別でみると、数量は1位から順に、横浜港、水島港、名古屋港。金額は1位から順に、横浜港、名古屋港、水島港となります。管内においては、名古屋港と清水港で輸入されています（管内全体の全国シェアは、数量は25.1%、金額は25.0%）。

国別輸入実績

2022年 全国 地域別構成比



2022年 名古屋港 地域別構成比



内円：数量
外円：金額

2022年における全国及び名古屋港の国・地域別構成比をみると、全国及び名古屋港ともに、輸入している大豆は、アメリカ産が約7割を占め、以下ブラジル、カナダと続いています。

アメリカとブラジルは大豆の2大生産国であり、全世界の7割を占めています。そのうちアメリカは5割、ブラジルは6割を輸出しており、日本では国産大豆だけでは足りないので、ほとんどを輸入に頼っています。

地元の

大豆加工食品企業



大豆は、日本の食卓には欠かせない食材や調味料に加工されるなど、古くから利用されてきました。平成25（2013）年12月4日に「和食：日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、大豆加工品を含めた和食文化が、世界から高い注目を浴びています。今回は、地元愛知県で輸入大豆の加工食品を扱っている企業から、大豆加工食品に関することや豆知識、今後の見通しなどを伺ってきました。



納豆は大豆を丸ごと手軽に食べられる優れた加工品

納豆の最大の特徴といえば「ネバネバ」+「香り」。それらの秘密は全て「納豆菌」にあります。

煮豆が納豆菌により納豆へ変わったとき、アミノ酸など旨みのもととなる成分や、ビタミンK2、ナットウキナーゼといった煮豆にはない栄養を作り出します。このように、「大豆」+ α の栄養素を含有する納豆は手軽に食事に取り入れができる優れた食品です。

納豆の需要の変化・今後の見通しについて

根強い簡便・即食ニーズと、発酵食品である納豆のもつ健康機能性の高さから引き続き注目される市場です。特に「ひきわり納豆」はメディアで健康効果が喧伝され需要が増加しました。また、最近は「フレーバー納豆」という定番の醤油たれ以外の味を楽しみたいというニーズにこたえた商品が増加しています。

★<https://www.mizkan.co.jp/natto-information/mame/>



納豆の豆知識が載ってるワン!



出典元：(株)Mizkan

最近のトレンド



【大豆ミート】

大豆ミートとは、主に油分を絞った大豆に圧力を加えて乾燥させた加工食品で、お肉に変わる食品として注目を集めています。植物性代替え肉の代表として、ヘルシー志向の方や、ベジタリアン・ヴィーガンにはお馴染みの食材となってきています。

【大豆麺】

麺類が食べたいけど糖質やカロリーが気になる方の救世主！大豆麺はグルテンフリーのヌードルとして人気があります。ラーメン、そば、パスタとお好みの食べ方で召し上がることができます。



お好みの豆乳が見つかる豊富なバリエーション

健康志向の高まりを背景に順調に生産量を伸ばしている豆乳。マルサンアイでは、大豆の良さを生かし、おいしくて飲みやすい豆乳の開発に取り組み続け品質向上に努めているとのことです。

無調整や調製豆乳などプレーンタイプはもちろん、有機大豆にこだわった豆乳、時代にあったフレバー、カロリーオフタイプなど、その種類はとても豊富になっているそうです。

豆乳の需要の変化・今後の見通しについて

豆乳は手軽に植物性たんぱく質が摂取できる飲料であり、特にコロナ禍においては買い物頻度を控える状況の中で、常温長期保存ができる豆乳はまとめ買いアイテムの代表格として需要が伸びました。

また、最近では飲料だけでなく料理やお菓子作りにも活用されているため、味の付いていない無調整タイプの豆乳の伸びが大きくなっているそうです。

豆乳はどんなお料理にもよく合う

スープからデザートまで豊富なヘルシーレシピを数多くご紹介しています。



★https://www.marusanai.co.jp/recipe/tonyu_recipe/



詳しいレシピが載ってるワン

出典元：マルサンアイ（株）

豆知識



「遺伝子組み換え」食品とは？

遺伝子組み換え（GMO）食品とは、他の生物の細胞から有用な性質を持つ遺伝子を取り出し、その性質を植物などの細胞の遺伝子に組み込み、新しい性質をもたらせることをいいます。農作物の害虫耐性を付与して使用農薬を低減したり、耕地面積あたりの収穫量を増やすなど、食糧問題や環境問題の解決に大きな役割を果たすとされています。

一方で、遺伝子組み換え食品が健康や環境に対して問題を引き起こすことがあってはならないので、問題のないもののみが栽培や流通できる仕組みとなっています。日本では遺伝子組み換え（GMO）大豆は油用に、遺伝子組み換えでない（Non-GMO）大豆は加工食品用として使用されています。

※GMO…Genetically Modified Organism の略称

終わりに…

大豆は古くから世界中で食べられています。日本は世界でも有数の平均寿命が高い国の一つですが、この長寿命を支えているのが、日本型食生活と「大豆」にあることが世界中の研究者から注目されています。いろんな豆の中でも、特に大豆は、調味料やさまざまな食品に加工され、日本人の健康増進に役立っています。

【大豆パワー】



● 健康な体を作る！

肉や卵に負けない良質なたんぱく質を含んでいます。

● 腸内環境を整える！

食物繊維を多く含むため、お腹の調子が整います。

● 老化予防につながる！

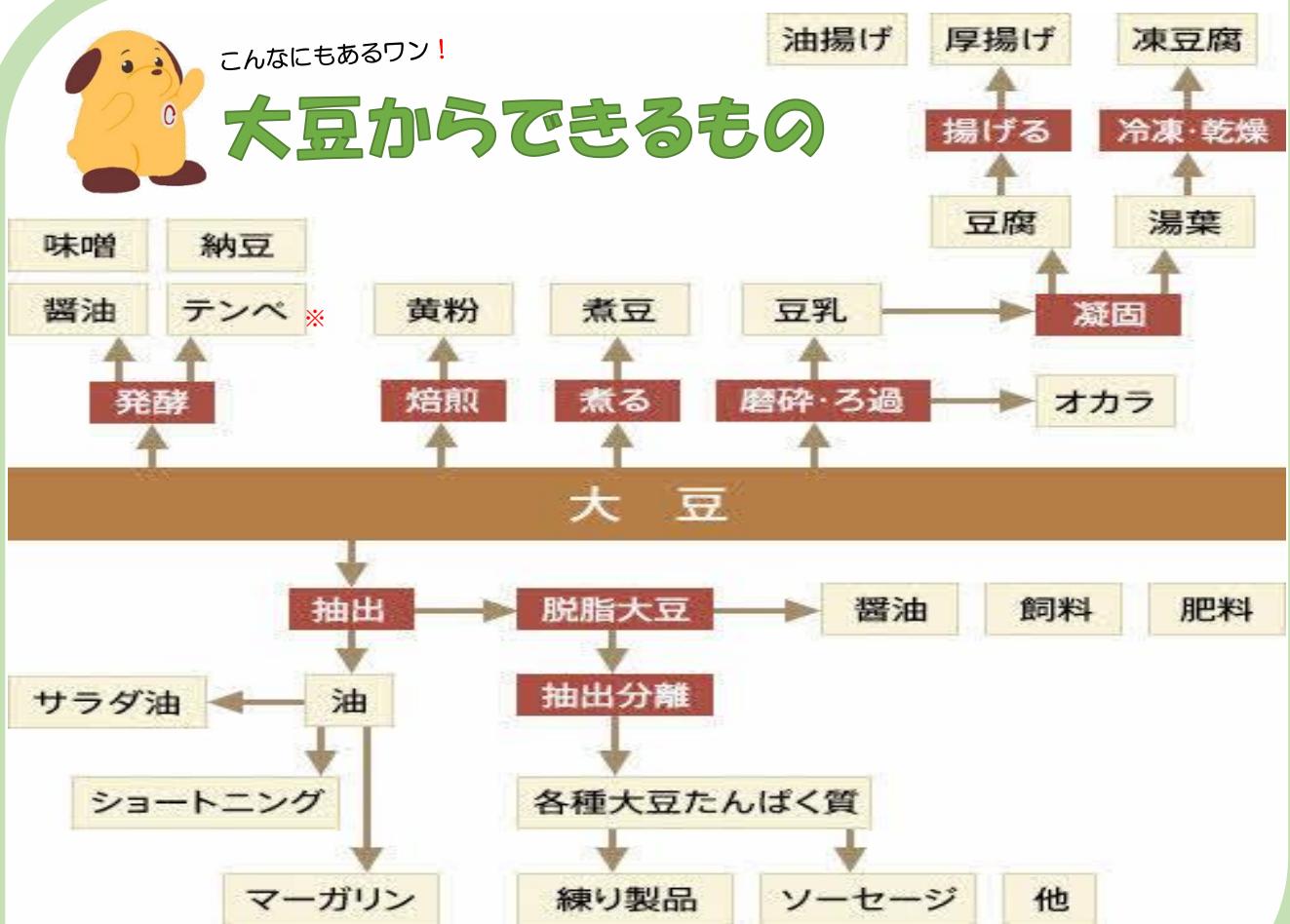
ビタミンEが豊富。抗酸化作用のある栄養素です。

● 強い歯や骨に！

カルシウムは、筋肉の収縮や神経伝達にも関与しています。



大豆からできるもの



※テンペとは、インドネシア発祥のテンペ菌による大豆の発酵食品

マルサンアイ(株)HPより引用

大豆の統計資料

全国・名古屋税関管内の輸入実績推移

年	全国			名古屋税関					
	数量 (トン)	金額 (千円)	前年比	数量 (トン)	金額 (千円)	前年比	全国比	前年比	全国比
1988年	4,685,453	全増	182,924,818	全増	788,578	全増	16.8%	30,993,447	全増 16.9%
1989年	4,346,218	92.8%	185,077,891	101.2%	709,340	90.0%	16.3%	30,006,275	96.8% 16.2%
1990年	4,681,382	107.7%	183,052,655	98.9%	772,741	108.9%	16.5%	29,574,038	98.6% 16.2%
1991年	4,331,067	92.5%	154,485,287	84.4%	699,256	90.5%	16.1%	24,540,055	83.0% 15.9%
1992年	4,725,284	109.1%	156,604,008	101.4%	829,207	118.6%	17.5%	27,039,782	110.2% 17.3%
1993年	5,031,147	106.5%	153,309,546	97.9%	822,438	99.2%	16.3%	24,583,115	90.9% 16.0%
1994年	4,731,308	94.0%	143,743,387	93.8%	780,868	95.0%	16.5%	23,235,332	94.5% 16.2%
1995年	4,813,489	101.7%	128,825,021	89.6%	902,361	115.6%	18.7%	23,496,738	101.1% 18.2%
1996年	4,870,324	101.2%	179,823,496	139.6%	798,556	88.5%	16.4%	29,290,702	124.7% 16.3%
1997年	5,056,935	103.8%	211,781,447	117.8%	849,817	106.4%	16.8%	35,063,555	119.7% 16.6%
1998年	4,751,360	94.0%	187,907,521	88.7%	820,257	96.5%	17.3%	31,401,579	89.6% 16.7%
1999年	4,884,212	102.8%	136,416,877	72.6%	897,125	109.4%	18.4%	24,047,677	76.6% 17.6%
2000年	4,829,378	98.9%	131,889,126	96.7%	860,749	96.0%	17.8%	22,631,383	94.1% 17.2%
2001年	4,831,951	100.1%	142,106,076	107.7%	850,489	98.8%	17.6%	24,019,747	106.1% 16.9%
2002年	5,038,937	104.3%	153,303,502	107.9%	968,209	113.8%	19.2%	28,819,977	120.0% 18.8%

2003年	4,885,275	全増	165,956,084	全増	1,019,077	全増	20.9%	34,065,643	全増 20.5%
2004年	4,360,841	89.3%	188,773,181	113.7%	885,025	86.9%	20.3%	37,425,730	109.9% 19.8%
2005年	4,155,007	95.3%	152,832,980	81.0%	837,806	94.7%	20.2%	30,185,462	80.7% 19.8%
2006年	4,027,873	96.9%	147,351,630	96.4%	802,625	95.8%	19.9%	28,908,287	95.8% 19.6%
2007年	4,144,913	102.9%	193,885,480	131.6%	757,481	94.4%	18.3%	35,698,994	123.5% 18.4%
2008年	3,702,579	89.3%	243,877,175	125.8%	709,095	93.6%	19.2%	46,930,333	131.5% 19.2%
2009年	3,370,961	91.0%	161,854,698	66.4%	634,960	89.6%	18.8%	30,435,082	64.9% 18.8%
2010年	3,443,970	102.2%	159,485,095	98.5%	647,812	102.0%	18.8%	30,208,067	99.3% 18.9%
2011年	2,820,454	81.9%	143,144,836	89.8%	543,497	83.9%	19.3%	27,954,377	92.5% 19.5%

2012年	2,712,524	全増	143,151,610	全増	517,379	全増	19.1%	27,612,553	全増 19.3%
2013年	2,749,182	101.4%	182,218,924	127.3%	589,534	114.0%	21.4%	39,183,063	141.9% 21.5%
2014年	2,816,429	102.5%	192,420,535	105.6%	656,442	111.4%	23.3%	44,728,806	114.2% 23.2%
2015年	3,232,537	114.8%	204,697,708	106.4%	758,325	115.5%	23.5%	47,487,484	106.2% 23.2%
2016年	3,120,022	96.5%	164,666,292	80.4%	741,941	97.8%	23.8%	39,096,385	82.3% 23.7%
2017年	3,209,915	102.9%	172,471,307	104.7%	788,885	106.3%	24.6%	42,132,116	107.8% 24.4%
2018年	3,227,347	100.5%	169,051,941	98.0%	815,761	103.4%	25.3%	42,225,628	100.2% 25.0%
2019年	3,383,422	104.8%	166,224,702	98.3%	860,714	105.5%	25.4%	41,599,972	98.5% 25.0%
2020年	3,157,258	93.3%	158,331,513	95.3%	769,055	89.4%	24.4%	38,371,137	92.2% 24.2%
2021年	3,264,862	103.4%	226,751,908	143.2%	838,292	109.0%	25.7%	58,079,502	151.4% 25.6%
2022年	3,498,515	107.2%	338,218,918	149.2%	879,367	104.9%	25.1%	84,484,605	145.5% 25.0%

…過去最高

※本資料の「大豆」とは、以下の統計品目番号に分類されたものをまとめたものです。

- ・1988年～2002年は輸入統計品目番号「1201.00-000」の「大豆（割ってあるかないかを問わない。）」
- ・2003年～2011年は輸入統計品目番号「1201.00-010」の「大豆（割ってあるかないかを問わない。）黄白色系のもの
- ・2012年～2022年は輸入統計品目番号「1201.90-010」の「大豆（割ってあるかないかを問わない。）その他のもの-黄白色系のもの

国・地域別実績(2022年)

国・地域	全国						名古屋港						
	数量(トン)			金額(千円)			数量(トン)			金額(千円)			
		前年比	構成比		前年比	構成比		前年比	構成比		前年比	構成比	
北米	2,883,407	104.8%	82.4%	278,285,571	144.4%	82.3%	463,667	98.6%	78.2%	45,177,152	135.3%	77.4%	
	アメリカ合衆国	2,574,664	103.8%	73.6%	241,831,662	142.1%	71.5%	391,128	93.5%	66.0%	36,464,193	126.0%	62.4%
	カナダ	308,743	113.6%	8.8%	36,453,909	161.4%	10.8%	72,539	140.4%	12.2%	8,712,959	195.8%	14.9%
中南米	596,582	120.4%	17.1%	57,007,860	178.0%	16.9%	120,929	154.7%	20.4%	11,868,498	239.7%	20.3%	
	ブラジル	596,582	120.4%	17.1%	57,007,860	178.0%	16.9%	120,929	154.9%	20.4%	11,868,498	240.1%	20.3%
	その他	18,526	109.9%	0.5%	2,925,487	146.7%	0.9%	8,258	114.8%	1.4%	1,350,506	149.1%	2.3%
総計	3,498,515	107.2%	100.0%	338,218,918	149.2%	100.0%	592,854	106.7%	100.0%	58,396,156	148.8%	100.0%	

港別構成比(2022年)

港	数量(トン)			金額(千円)		
		前年比	構成比		前年比	構成比
横浜	692,701	104.8%	19.8%	66,999,713	144.2%	19.8%
名古屋	592,854	106.7%	16.9%	58,396,156	148.8%	17.3%
水島	630,173	111.9%	18.0%	58,004,422	156.4%	17.1%
鹿島	339,949	103.8%	9.7%	31,436,145	143.4%	9.3%
清水	286,513	101.3%	8.2%	26,088,449	138.4%	7.7%
千葉	277,375	115.9%	7.9%	25,671,535	162.1%	7.6%
神戸	221,185	94.8%	6.3%	22,732,801	132.7%	6.7%
博多	206,789	121.0%	5.9%	20,769,434	173.8%	6.1%
東京	119,078	129.3%	3.4%	14,509,133	182.5%	4.3%
その他	131,898	94.6%	3.8%	13,611,130	131.9%	4.0%
総計	3,498,515	107.2%	100.0%	338,218,918	149.2%	100.0%

参考

●2022年 世界の大豆生産量ランキング

順位	国名	生産量(千トン)
総生産量	世界	375,148
1位	ブラジル	153,000
2位	アメリカ	116,377
3位	アルゼンチン	33,000
4位	中国	20,280
5位	インド	12,000
⋮		
12位	日本	232

●2022年 世界の大豆輸出量ランキング

順位	国名	輸出量(千トン)
総輸出量	世界	168,402
1位	ブラジル	92,700
2位	アメリカ	54,839
3位	パラグアイ	6,400
4位	カナダ	4,200
5位	アルゼンチン	3,400
⋮		
	日本	0

米国農務省（USDA）「Production, Supply and Distribution」から引用

【取材協力】（順不同）

- ・マルサンアイ株式会社
- ・株式会社 Mizkan
- ・農林水産省（農産局穀物課豆類班）

①本資料の「過去最高」とは、1988年以降のデータを基礎としています。

②本資料の輸出数量及び金額について、2021年以前は確定値、2022年は確々報値です。

③名古屋税関管内とは、名古屋税関が管轄する愛知、岐阜、三重、静岡、長野の5県をいいます。

④本資料の構成比については、四捨五入処理により総計が100%とならない場合があります。

⑤本資料を引用する場合、名古屋税関の資料による旨を注記して下さい。

⑥本資料に関するお問い合わせは、名古屋税関 調査部 調査統計課（TEL052-654-4176）までお願いします。

また、貿易統計は名古屋税関 HP でもご覧いただけます。《 <https://www.customs.go.jp/nagoya/> 》